大雪山系縦走

M4　荒川 晶

【参加メンバー】
M4 荒川(単独)

【コースタイム】
8/16(Sat)　晴れ時々曇り
層雲峡温泉 06:00-(ロープウェイ)-五合目 06:20～07:10 七合目 07:20～08:45 黒岳 09:00～09:20 黒岳石室(桂月岳往復)10:00～11:25 北鎮岳分岐(北鎮岳往復)12:15～13:10 間宮岳分岐 13:30～14:00 裏旭テント場(テント設営)15:05～15:30 旭岳山頂 15:55～16:15 裏旭テント場
行動時間：10 時間 15 分
8/17(Sun)　晴れ時々曇り
裏旭テント場 04:00～04:20 旭岳 05:20～05:40 裏旭テント場 06:05～07:30 北海岳 07:45～08:55 白雲岳 09:15～10:15 白雲岳避難小屋 10:35～13:15 忠別池 13:35～14:25 忠別岳 14:40～15:45 忠別岳避難小屋
行動時間：11 時間 45 分
8/18(Mon) 晴れのち曇り
忠別岳避難小屋 06:00～07:00 五色岳避難小屋 07:20～08:40 化雲岳 09:00～10:00 ヒサゴ沼 11:00～13:55 北沼分岐点 14:05～14:50 トムラウシ山 15:30～16:00 南沼キャンプ地
行動時間：10 時間
8/19(Tue)　曇りのち雨(風強し)
南沼キャンプ地 04:35～06:20 三川台 06:30～ツリガネ山 08:00～コスマヌプリ 09:45～双子池 11:30～13:15 オプタテシケ山中腹で引返す～14:30 双子池キャンプ地(幕営)
行動時間：10 時間
8/20(Wed)　雨(稜線では風強し)
双子池キャンプ地 08:35～オプタテシケ山 10:35～ベベツ岳 11:50～美瑛富士避難小屋 13:00
行動時間：4 時間 30 分
08/21(Thu) 曇り時々晴れ
美瑛富士避難小屋 04:35～06:20 美瑛岳 06:50～09:15 十勝岳 09:45～13:10 富良野岳 14:10～十勝岳温泉 16:10
行動時間：11 時間 35 分

【概要】
　先月の南アルプス山行に引き続き、8 月にも長年の課題にしていた大雪山系の山行を実施することにした。大雪山系のシーズンは高山植物の咲き乱れる 7 月末と紅葉シーズンの 9 月中旬と聞くが、どちらも外す形になってしまった。その分、大雪山・トムラウシ・十勝岳界隈以外では比較的人も少なく、静かな山歩きを楽しむことが出来た。

一方で北海道独特のヒグマ対策、水事情には随分と気を遣わされた。ヒグマに関しては、今回は熊鈴を準備していったのと、出現が予想されるエリアでは匂いの強い食糧を選ばないなどを考えた。一方で、化雲岳周囲ではヒグマの出現を待ち、ひねもすカメラ(※ただし超望遠レンズ)を構える人もおり、大雪山系では必要以上に神経質になる必要はないようにも思えた。水に関しては、原則煮沸としたが、現地では濾過用フィルターが多用されており、煮沸をしている人は自分以外に見掛けなかった。

時節柄準備不足気味になってしまったのも反省点である。まず、行程全般でやや調子が上がらなかった。水場の情報調査がやや不足し、トムラウシ山の周囲では水場確保のため、北沼まで往復する必要が生じた。さらに双子池、美瑛富士界隈では天候の悪さも相まって、上質な水が確保できなかったのもやや行程を難渋させた。

それと、出発前に雨具を洗濯したのだが、このために使い古した雨具の Gore-Tex が一気に剥がれ落ちてしまったようで、4 日目、5 日目の悪天下では体温をすっかり奪われてしまい、あわや瀕死の状態に陥るところであった。

反省点も多かったが、今後暫く長期の登山が出来ないことが予想されるため、この夏に歩くことができて良かった。北海道の山は内地と違った危険も多いが、独特の魅力も多い。知床・日高などが次の目標になるだろうか。いつか再訪したいものである。

【本文】

<1 日目>

8/14 夜の夜行列車で上野を出発、15 日昼に札幌に到着し、さらに特急列車とバスを乗り継いで夕刻に層雲峡温泉に到着。バス停の近くにあるキャンプ場で 1 泊し、朝 1 番のロープウェイで 5 合目へ。ここでリフトに乗り継げばあっさりと 7 合目まで行け、実際多くの登山客がそうしていたのだが、何故か自分はリフトには乗らず登山道を歩くことにした。今回はやや荷物が重く、体が慣れていなかったからかペースが上がらず 1 時間以上かけて 7 合目へ。

ロープウェイ、リフトからの展望は北面は良いものの、山頂付近の展望はいまいち。7 合目まで往復しても、大雪山の全容を楽しむのは難しそうである。ここからは平坦で歩きやすく、所々階段を繋ぎながらのルート。1 時間 30 分ほどで黒岳山頂へ。ルート上はガスっていたが山頂付近は展望が良かった。すでに人で賑わっていたが、何故かレッドカーペットを敷いてお茶会をしているグループがあったのは不思議だった。

すこし休憩して黒岳石室へ。早くもテントを設営しているグループも。この日はお盆休み最後の週末ともあり多くの人で賑わうのだろうと思う。休憩がてら珪月岳を往復し、お鉢巡りコースへ進む。コース上ではキタキツネに遭遇しながら、30 分ほどでお鉢平展望台へ。

日本人の他にも外国人の登山客を見かけたりしつつも。展望を楽しむ。途中雪渓を渡り、北鎮岳の分岐を経て北鎮岳山頂へ。黒岳よりも標高が高く、お鉢全体の見晴らしも大分良いように思う。ここでようやく遠方に旭岳が姿を見せる。時折雲に姿を隠すもののその姿は麗しい。

(右)お鉢平展望台からの眺め。向かいには間宮岳。

北鎮岳山頂から、左手側に間宮岳、中央奥に旭岳。この辺りに来て漸く旭岳の全容を見ることが出来るようになった。

北面には、鋸岳、比布岳を望む。やや雲の多い天候だが、比較的眺望はよい。

しばし休み、この辺りで昼食。その後、旭岳方面へ向けて出発。中岳・間宮岳を経由して、裏旭キャンプ場へ。元々は、黒岳石室にテントを張り、お鉢巡りをする予定だったのだが、少しペースが遅めだったのでここでテントを張って 1 泊することにした。これだけロープウェイの発着地に近く、日帰り登山客が多く通過する場所でありながら、水場は雪渓の水を取り、トイレもなし、もちろん管理人もいないというワイルドなキャンプ地である。時刻はまだ 14:30 頃であり、先客はいなかったがほぼ同時刻に 1 名が旭岳方面から山を下ってきてテントを張っていた。今日は行程も短かったはずなのだが思いのほか疲れてしまっており、水場で水を取って湯を沸かしコーヒーで一服。休んでいる間に続々と登山客が訪れ、最終的にテントの数は 7.8 張に。

キャンプ地のすぐ裏手にある旭岳はガスに隠され姿が見えたり見えなかったり。折角なのでガスの晴れた時に山頂に行こうと空荷で山頂へ。山頂までの斜面は、早い時期は雪渓になるのだろうが今回は地面が露出しており、足場が弱くやや滑りやすい。重い荷物を持っていたらさぞかし難渋しただろうと思いながら山頂へ。残念ながら展望はないまま、30 分ほど粘ったがガスが晴れなかったので再び下山。夕食の支度をして、早めに就寝。

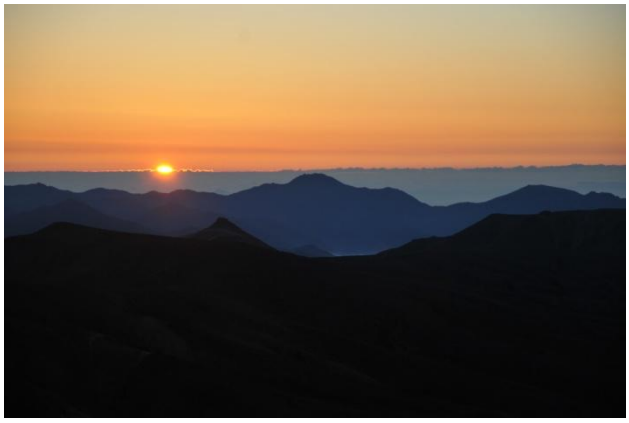
熊ヶ岳を遠景に裏旭キャンプ地に向けて歩く。ガスがだんだん濃くなってきた。

裏旭キャンプ地より、旭岳を見返す。ガスの切れたタイミングに撮影。

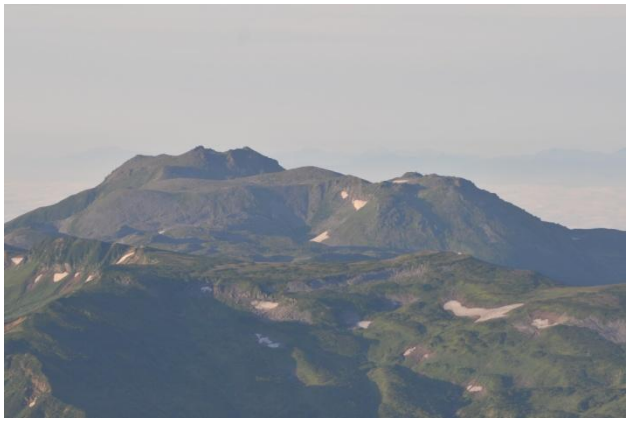
<2 日目>

もし晴れたなら旭岳山頂が見えるだろうと思いながら 3 時過ぎに起床。見上げると期待通り晴れている。これはと思い朝食を済ませて旭岳山頂へ。折角なので山頂へ。先客は 1 組の中年夫婦のみ。夜明けまでには時間があるが、周囲 360°に素晴らしい展望。トムラウシ・十勝岳方面の他、石狩岳などの展望も素晴らしかった。数日後にはあの辺りまで歩くのかと思えば感慨深いものがある。

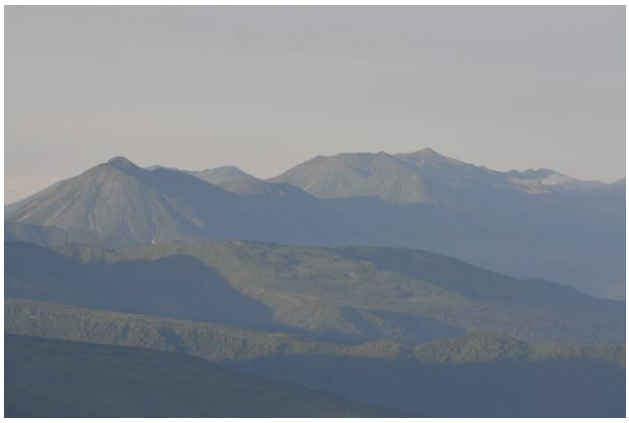
4 時 30 分ごろにご来光。夏独特の柔らかい朝の光が、トムラウシ、十勝岳を照らすさまを 1 時間ほどゆっくりと堪能し、テント場に下山。テントを畳んで 6 時ごろ出発。山頂でご一緒したご夫婦はこのまま黒岳まで縦走して下山するとのこと。



黒岳方面からご来光。北海道の日の出は夏の終わりでもまだ早い。



王冠型の山頂を持つトムラウシ山も、朝の光を浴びて佇む。



左からオプタテシケ山、中央に美瑛岳、やや右に突き出す十勝岳を一望。

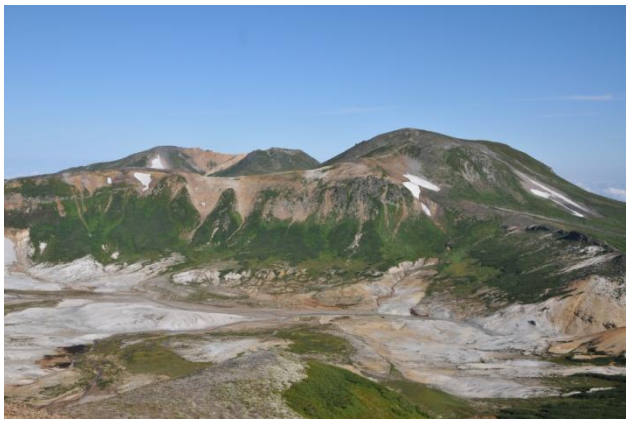
南東方向には、高根ヶ原の向こうに音更山、石狩岳、ニペソツ山などの稜線が広がる。

昨日歩いた道を登り返して間宮岳。昨日はやや曇りがちだったこの場所だが、ここも天候が良く素晴らしい展望。お鉢巡りの残りの部分を縦走して北海岳へ。この辺りから、白雲岳避難小屋から縦走してきた様子の人と時折すれ違う。北海岳でいよいよお鉢巡りは最後。風景をしっかり焼き付けて白雲岳を目指す。途中ルートをショートカットしつつ、1 時間少々で白雲岳山頂へ。山頂付近がやや岩場だった。

少し雲が出てきたのを残念に思い、軽食を取って白雲岳避難小屋へ。1 時間少々で到着。ここは黒岳石室と並び、大雪山系で管理人の常駐している小屋。交通網が発達しておらずややアプローチの悪い場所かと考えていたが、実際は大雪高原温泉から数時間程度でアプローチできる便利さが好まれ、利用客が

結構多いようだ。この日も滞在目的のテントが何張か。

間宮岳山頂より、右から旭岳、後旭岳、左遠方にトムラウシ山。



北海岳付近より、お鉢平の向こう側に、北鎮岳、比布岳を望む。雲もなくすっきりとした空模様。

中央に白雲岳。山頂付近はやや岩場が目立ち、他の山々とは少し違った印象。

北海平から、トムラウシ～十勝岳の山々を望む。2日後にはあのルートを歩くことになる。

しばし休憩の上で、忠別岳方面へ足を進める。比較的平坦地を歩くが、周囲には植生が殆どないので、悪天候時は吹きさらしになるのだろうと思う。大雪高原温泉ルートへのショートカットルートがあったが、今はヒグマの出没が多く通行禁止なのだとか。途上では望遠レンズでヒグマを狙う方々もいた。

このルートは大雪山系一帯と比べても人も少なく歩きやすい。忠別池までは特に目立ったランドマークもなく、アップダウンの少ないルートをのんびりと歩く。少し雲も多くなってきたが忠別池も静かな場所で好印象であった。さらに 1 時間ほどで忠別岳山頂へ。ここも非対称の山体が特徴的で、西側方面へ大きく崩落している姿が印象的であった。ここからさらに 1 時間ほど、若干コースタイムより長めの時間を掛けて今晩の宿泊地、忠別岳避難小屋に到着。ここはテント 2.3 張りと、小屋の中に女性 2 人組と私と単独行の男性もう 1 名のみで静かな環境だった。

(左)忠別沼。午後は曇りがちの天気だったが、ここは静かな場所。左奥に見えるのは忠別岳。独特の山容。

忠別岳の山頂より。西側斜面はガラガラした岩が切れ落ちている。

忠別岳避難小屋。テント泊の人を含めても 10 人程度と、比較的過ごしやすい環境だった。

<3 日目>

昨日の行程がやや長めで、今日の行程もコースタイム上で 6.7 時間とのことで比較的のんびり過ごそうと思い、5 時ごろ起床、6 時ごろに出発した。時間に余裕があれば、只左 Dr.お勧めの沼ノ原へと足を伸ばしてみようと思ったが、今回は時間切れでパスすることにした。1 時間ほどで五色岳、さらに 1 時間で白雲岳に到着。殆ど人にも会わず、のんびりと歩くことが出来た。白雲岳には山頂に特徴的な岩塊があり、登れそうだったので登って 360°展望したり、誰もいないので気ままにふるまうことが出来た。

その後は静けさが魅力的と聞く、ヒサゴ沼避難小屋へ向かうことに。片道 30 分ほどのやや岩場の多い道のりだったが、途中でシマリスを 1 匹見かけた。道民では飽きるほど見たという人もいるらしいが北海道の山は初めての私ははしゃいでしばし写真撮影に明け暮れ、小一時間ほど掛かってしまった。

(左上)五色岳から化雲岳への道すがら。静かな環境の中、木道を歩く。
(上)化雲岳山頂からトムラウシ山。昨日よりも大分近付いた印象がある。
(左)ヒサゴ沼の道すがら出合ったシマリス。

そしてヒサゴ沼に。ここは静かな沼として有名らしいが、実際訪れてみるとよい場所であった。時間帯だけに誰もいない小屋でしばし休息を取る。持参したウイスキーでも軽く一杯。時折響くナキウサギの声を楽しみながら、静かに時を過ごした。

休憩の後に本道へ登り返し。残雪が多く、雪がない場所はない場所で岩稜帯であり少々手間取った。この先暫く行ったところは日本庭園と呼ばれ、ハイマツや岩が独特の景観を呈している。確か、雲ノ平にも似たような場所があったなぁと思いながら歩みを進める。この先、ロックガーデンと呼ばれる地名があるように、岩がゴロゴロしている中を歩く。北沼手前では 2 度のややきつい登りがあり、コースタイムよりかなり時間を取ってしまう。ややガスが増えてきた風景の中、北沼分岐点へ。ここで水が補給できるのであったが、南沼のキャンプ指定地の水場を当てにしており補給しなかった。この判断ミスが後々に響くことになる。

ここからやや厳し目の岩稜帯を歩く。初日からの疲れか、ペースが全く上がらない。コースタイムの倍近い時間を掛けて、漸くトムラウシの山頂に至った。山頂はガスっていたが、時折雲が切れて展望が広がる。山頂にいた中高生、あるいは 4 年生大学生集団？が降りるのを待って、記念撮影。標識はやたら大きかった。

撮影後は下山路を慎重に歩き、30 分ほどで南沼のキャンプ地に至る。早くも時刻は 4 時になってしまった。テントスペースには余裕があったので、広々と場所を確保して設営。ここで水汲みに行こうとしたところで 2 つのトラブル発生！1 つは飲料用に確保していた水をテント内でこぼしてしまったこと。ロールペーパー、新聞紙で吸湿して難をのがれたが、水を大きくロスしてしまったのは痛手であった。さらにもう 1 点。水場が涸れてしまって使い物にならなかったこと。散々探し回った挙句、北沼まで引き返すことになってしまった。このため、漸く腰を押し付けると時刻ははや 6 時過ぎ。今日はキャンプ地でのんびりする予定だったのに全然時間に余裕がなくなってしまった。明日以降天気は崩れるので夕食を早々に食べて、寝ることにした。

(左上)ヒサゴ沼避難小屋から。静寂の中、ナキウサギの声が響く。
(上)縦走路への途上で。比較的大きい沼である。
(左)トムラウシへと向かう途上の日本庭園で。ごろごろした岩が無造作に積まれており、時としてルートを見失いがちになった。

トムラウシ山頂にてセルフ記念撮影。手前には三角点も。

山頂付近はゴロゴロとした岩に覆われている。

<4 日目>

大雪山系縦走で最も人の少ないことの予想される、トムラウシ～美瑛岳間。他のコースと比べてやや地味であるきらいがあるが、双子池やオプタテシケ山など、魅力的なスポットも何箇所かあり、静かな山歩きを期待していた。ただこの区間は、不運にも悪天候気味で殆ど展望も楽しめなかったのが残念であった。

4 日目は天候の悪化前になるべく早く出発しようと思い 4 時過ぎに出発。出発直後には太陽が登り、遠方に見えるオプタテシケ山、十勝岳が奇妙なほど紅くモルケンロートに染まっていた。昔、只左 Dr.が涸沢で真紅に染まるモルケンロートを見たのちに、天候が崩れたと日誌に記載されていたのを思い出す。そう遠くないうちに雨が降るなと覚悟して出発。最初の 2 時間は時折ハイマツ茂る中を三川台まで西方向へ進む。この時はまだ遠望が利き、旭岳、トムラウシ、オプタテシケ山それぞれを眺めながら歩くことが出来た。三川台で一服入れ、歩き始めたころから少しずつ雨が降り始める。道中はやや足場の悪い箇所や、長い鎖場などがあり苦労したが、それでもコースタイムより大分早めに歩みを進めることが出来た。トムラウシ、オプタテシケの両山を眺めることのできるツリガネ山、コスマヌプリも楽しみにしていたが、視界も利かなくなってきたのでパス。

コスマヌプリを過ぎた辺りでは、遠方の風で揺れる松の木をヒグマと勘違いしてしまい、背筋の凍る思いをした。この一帯はヒグマが多いと記載されていたため、先入観が入ってしまったのだろうか。今から思えばどうということのないミスなのだが、あの時は本当に怖かった。

カブト岩と呼ばれる大岩を抜け、少しずつコルらしい地形に近付いた所で双子池。この頃には雨風とも強まりだし、池らしい池を確認したものの、とても雰囲気を楽しめるような雰囲気ではなく、そのまま通過。10 分ほど歩いたところで何とかテントの張れそうな場所を確認。だがここも雨水でそこかしこが水びたしになっており、とてもテントを張れる気分にならなかった。おまけにヒグマの出現率が高いのだとか。時刻は 11:45。このペースなら、美瑛富士の避難小屋まで行けるかも、あるいは山腹にテントの適地があるかもしれないと思い、歩みを進めることにした。

1 時間ほどややきつい斜面を黙々と登る。テントの適地はなし。ここまではさほど強くなかった風が、ある 1 点を境に猛烈に強くなりだした。先述の通り、この時点で私自身は気付いていなかったのだが、雨具から水がしみ出し、中に着ていた服までびしょ濡れになっていた。それに猛烈な風。適当そうに見

えた場所でテントを張ろうとしているうちに一気に体温を奪われてしまい、これより先に歩みを進めると本当に危なくなりそうだったので、悔しいが双子池キャンプ地まで引き返すことにした。途中で 3 人グループと遭遇。私と同様トムラウシから来たとのこと。風が強かった旨を伝えて、そのままキャンプ地まで引き返した。昨日見掛けた学生グループと丁度バッティング。足元が非常に悪かったが止むを得ないので、何とか浸水しなさそうな場所を見つけテント設営。ズボンの替えを持ってこないという凡ミスをしたので、設営中はずっと下着で過ごすことになってしまった。まだまだ雨天下の山行に関しては経験不足である。ヒグマの接近に怯えつつ、隣人の存在に少し安心感を与えられて、一夜を過ごす。外は雨風強い。

奇妙なほど紅いモルケンロートに染まる、オプタテシケ山と十勝岳連峰。

三川台からトムラウシ山を望む。この直後から雨が降り始め、展望は全く効かなくなった。

<5 日目>

5 時過ぎに起床。おもむろに朝食を済ませて今日の行程を考える。翌日まで待てば天候も安定方向に向かうようなので、何もない場所であればもう 1 日停滞しても良かったのだが、隣に 1 パーティいるとはいえ、ヒグマの存在が不安。それに美瑛富士には避難小屋があり、そこでのんびりと足を延ばして寝たい誘惑もあり、雨、風が少し収まったように感じた 8 時過ぎに出発することにした。水を吸ったズボンは重く冷たいが我慢。

昨日とは違い、多少の雨はあるもののオプタテシケ山の登山道は凪いでおり、山頂付近までは歩きやすかった。このような雰囲気で、美瑛富士まで行ければよいなと思っていたのも、つかの間の安息に過ぎなかったようだ。山頂手前で稜線に出た次の瞬間、昨日とは逆方向、北寄りの猛烈な風に煽られる。

引き返すか、先に進むか。迷ったが、コースタイム 2 時間ほど、それと地形的にも途中風防になる箇所はあるだろうと思い後者を選択。やっとの思いでオプタテシケ山の看板だけ撮影した後は、風の吹きすさぶ稜線を黙々と歩く。雨具が故障した状態を作ったのは自分とは言え、今まで経験した山行の中では文句なしに最も辛い行程だった。風を凌ぐことのできる南側の斜面で休息を入れつつ、登山道を見失わないように細心の注意を払いながら、2 時間ほどで美瑛富士避難小屋へ。時刻は 13 時過ぎ。これでもほぼコースタイム通りの時間である。

小屋内には単独行の男性と昨日引き返していた時に出会った 3 人組が停滞中。余りにも疲労困憊していた私を見かねてか、グループの方の女性がわざわざ紅茶を差し入れて下さった。有難く頂きつつも、ここまで消耗してしまった自分が情けなく思えた。幸いにも広めのスペースを確保できたので、濡れた

衣類を乾かしたりして、以降はのんびりと過ごす。夕刻に他の 5 人組の学生グループが到着。風は相変わらず強かったが、いつしか雨は止み、静かに夜を過ごすことが出来た。

<6 日目>

5 日目までにここに到着出来ていれば、6 日目中に下山しようと決めていたので、早めに起床してヘッドライトなしで歩けるようになる 4 時 30 分に出発。高曇りの天気ではあったが、雨風とも収まっていたので歩きやすかった。美瑛富士は円錐形をした美しい山であったが、時間の都合上パス。1 時間半ほどで美瑛岳に至り、しばし展望鑑賞。十勝岳、トムラウシ～大雪山の展望が美しかった。ただ雨の中に長時間さらしたからか、持ってきた一眼レフのレンズが曇ってしまったので以下の写真は全て Ipod に委ねることにした。

十勝岳は今までの山々と違い現役の火山であり、そのせいかその一帯には一切の植物の生育を許さない独特の景観が広がっていてたいへん興味深い。足元も山頂に近付いてくるにつれて次第に火山灰質となり歩きにくくなってくる。急ぎではない行程のせいか、やや時間を掛けて十勝岳山頂へ。100 名山として有名な山でもあり、多くの人で賑わっている。山頂周辺には幾つかのルートがあるが、殆どの人は望岳台、吹上温泉方面から登ってくるようだ。

美瑛岳から十勝岳、富良野岳を望む。火山らしい鋭い景観の十勝岳が目立つ。

北面には手前から美瑛富士とオプタテシケ山。昨日歩いたルートも見える。遠景には大雪山も。

十勝岳手前にて。さながら異世界にきたかのような、独特の景観が広がる。

十勝岳山頂より北東方向。石狩岳、ニペソツ山などの山々もいずれ訪問してみたい。

天候も回復し、時折晴れ間ものぞくように。しばし展望を楽しんだ後に、富良野岳方面へ縦走を開始。十勝岳らしい景観は上ホロカメットク山に到達するまでにほぼ消え失せ、植生が豊かな富良野岳らしい景観となる。かみふらの岳付近での登り返しに苦しみながらも、コースタイムよりやや早いペースで十勝岳温泉からの登山道との合流点に到着。この日は小中学生の日帰り登山が行われている様子。微笑ましく見守りながら富良野岳山頂に到着。幸いにも集団登山のグループはすでに下山を始めており、比較的山頂は空いていた。

今回がこの縦走の最後のピークとなるだけあって、感慨深い気持ちで山頂の空気を味わった。南方向には日高山脈が見え、随分とかの山々に近付いたことを実感。足元には今回はパスする原始ヶ原を見下ろす。いつか機会があれば訪れてみたいものだ。1 時間ほど、濡れたものを乾かしながら紅茶で一服して下山を開始する。山頂を離れてしまえば現金なもので、下山後の温泉とビールのことしか考えられなくなってしまった。そこそこのペースで下っていたのだが、予想していたより時間が掛かるのがもどかしい。2 時間ほどで凌雲閣に到着。独特の濁り湯とビールを楽しんで、下山するバスへと乗車した。

十勝岳からの道中、三峰山から富良野岳。その姿はこの辺りが最も美しいように思う。

十勝岳周辺の爆裂火口。土の表層が荒々しい雰囲気を作り出している。

富良野岳山頂から原始ヶ原と前富良野岳、さらに遠くには日高山脈の山々が見える。

下山途中。爆裂火口を下から眺める。温泉はもうすぐだ。